

開業医で取り組む！全身麻酔を活用した歯科治療について

征矢 学 先生

 医療法人KUMU ソヤ歯科（茨城県日立市）
 CDAC（Clinical Dental Anesthesiologist Club）理事

 日本歯科麻酔学会
 歯科麻酔専門医・認定医
 日本障害歯科学会・認定医

茨城県日立市で35年にわたり地域密着型の診療を続けるソヤ歯科の院長に2020年より就任

実 は静脈内鎮静より安全な
全身麻酔下歯科治療

口が開けられず臼歯部の治療が出来ない
 歯科恐怖症の患者さんや、異常絞扼反射（嘔吐反射）が強いために印象が出来ずに通院が途絶えてしまう患者さんは開業医でも遭遇することがあります。このような場合、鎮静法での管理が有効です。歯科恐怖症患者さんの管理方法として、笑気吸入鎮静法よりも静脈内鎮静法の方が優れていて10人中8人程度は安全に管理することが出来ます。しかし、すべての患者さんが静脈内鎮静で「安全」そして「快適」に治療を受けられるわけではありません。例えば、重度の異常絞扼反射や歯科恐怖症の患者さんは静脈内鎮静下での歯科治療でも、患者さんの手が口元を覆うにとどまらず、体を大きく動かして形成どころではなくなってしまうことがあります。鎮静中の嘔吐や体動を押さえるために麻酔薬の量を増やせば、呼吸抑制や誤嚥などの合併症が生じて気道管理が困難になります。このような場合、無理に静脈内鎮静を行うのではなく、「全身麻酔」を活用することで、完全に寝ている状態かつ確実な気道管理下に歯科治療を行うことで「安全で快適な歯科治療」を行うことが出来ます。

開 業医で取り組む
日帰り全身麻酔での歯科治療

全身麻酔を用いた歯科治療というと、大学病院や病院歯科の手術室で行われている口腔がんや顎変形症手術などの口腔外科手術が一番に挙げられますが、今回お話しするのは、「全身麻酔下に行う一般歯科治療」です。全身麻酔というのは、「鎮静（無意識）・鎮痛・不動（筋弛緩）」の状態を麻酔科医が管理す

る麻酔方法です。以前であれば、病院で入院しなければ全身麻酔は受けられませんでした。しかし、この20年の間に全身麻酔に使用する薬剤は大きく進歩し、術後の覚醒や回復に掛かる時間が大幅に短縮できるようになったことから、安全に日帰り全身麻酔を受けられるようになってきました。



一般歯科医院で行う日帰り全身麻酔風景

全 身麻酔での歯科治療を希望する
患者は200万人弱

歯科治療に強い恐怖心を持つ患者のうち、全身麻酔での歯科治療を希望する患者は14.3%と報告され、200万人弱の患者さんが必要としている治療法だと言えます。設備や後方支援病院の確保などハードルが高いですが、大学病院以外でも全身麻酔に対応できる施設が少しずつ増えてきています。実際、歯科治療を受けたくても受けられない患者さんの中には悩みを抱えて、全身麻酔で対応できる施設のお問い合わせをいた

だくことが増えています。近隣に大学病院などの施設があれば問題ありませんが、多くの地域で全身麻酔や静脈内鎮静を受けられる施設は乏しく、このような悩みを抱えた患者さんは全国各地に存在しています。私たちの歯科麻酔スタディグループ CDAC に所属する50名の歯科麻酔科医の中で、自身で開業している歯科医院や勤務先で日帰り全身麻酔に対応している歯科医院が増えています。そして、開業医の先生の中には全身麻酔ができる設備を導入したいがどのようにすれば良いのか、という相談もいただきます。このような場合には、全身麻酔の導入およびチーム医療のサポートをCDACとして行っていますし、実際に全身麻酔を導入する開業医ができてきました。これは、近隣で麻酔管理を受けることができない地域の格差を少しでもなくすための活動です。患者さんにとっても開業医にとっても、安全で快適な歯科治療が望まれる時代だからこそ、CDACでは皆様のクリニックで静脈内鎮静法や日帰り全身麻酔法をより身近に活用できる医療連携サポートを整えて、歯科麻酔科医とのチーム医療に取り組んでいます。まだまだ少数ですので、全国に少しずつ全身麻酔に対応可能な歯科医院が増えていったらよいと思っています。

全身麻酔の有用性について

メリット	デメリット
意識なく安心して治療が受けられる	術前検査が必要 (血液検査・心電図・呼吸機能検査・胸部X線写真など)
気道管理が確実	全身麻酔器や医療配管などの設備導入
安全で確実な処置を行える	合併症のリスク

全身麻酔の適応

- ・重度の異常絞扼反射
- ・口腔外科処置 インプラント 外傷
- ・歯科恐怖症患者の多数歯にわたる治療
- ・対応困難な障害者
- ・治療非協力的な小児